

1 実証事業概要

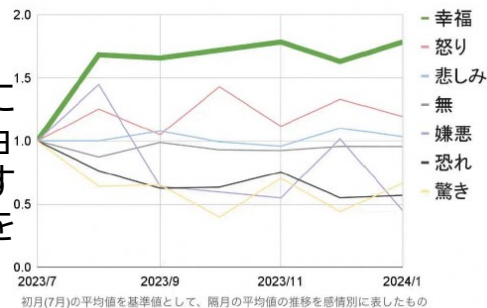
○ICT機器を活用した認知症予防及び介護従事者の負担を軽減。

○老年期の対人交流や社会参加が認知症予防の保護因子と言われている。

○ 実証期間
令和5年7月～令和6年1月

○ 実施概要
高齢者向けアプリケーション付きタブレット話せる伝言板「ケアビー」を活用し、認知症予防に関する実証実験を行う。ICT機器を活用し、離れている家族や介護関係者等の負担軽減効果も合わせて検証。

○ 目的と意義
利用者一人ひとりの身体機能・認知機能に合わせた、誰でも使えるコミュニケーションツールを使い、高齢者の生活を豊かにする選択肢のひとつとして新たな判断材料を提示することができると思う。



2 実施結果

【高齢者の幸福な感情が高い状態で維持できる】

○利用履歴、映像分析、アンケート結果の分析により、高齢者向けタブレット「ケアビー」の活用による効果に関して高齢者の感情に関わる重要なポイントが確認できた。

○今回の実証実験の利用者平均年齢が87歳であり、認知症の方もご利用できたことから、このようなツール活用が難しいとされている方々でも、高齢者の生活を豊かにする選択肢のひとつとして新たな判断材料を提示することができると思う。



どんな高齢者でも、
 デジタルアクセスを可能にする！
ケアビー

3 今後の展開

○高齢者向けアプリケーション付きタブレット話せる伝言板「ケアビー」の活用によりポジティブな感情の表出が得られるという示唆を得た。社会とのつながりの維持は認知機能の維持にも響いてくると考えられる。今後は、認知症の症状についての定量的な評価を取得できる仕組みを整え、継続的なデータ取得を進めることで、認知症予防への影響について、実証研究を進めていく。